

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

学習内容を視覚的に図式化するための ICT 活用

「文章の内容読解」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部1年
	障がい名等	聴覚障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	- 主に口話・指文字でのコミュニケーションが可能な生徒2名(人工内耳装用)、主に手話・指文字を用いてコミュニケーションを図る生徒1名(補聴器装用)の計3名のグループであるが、文章読解力については実態差がある。 - 音読では、2名は口話、1名は手話と口話を用いている。教師の発問にも、口話のみで発言するため全員に内容が伝わっていないことがある。その場合には教師が発言内容を手話を用いながら繰り返したり、再度みんなに分かるように発表するように促したりして全員で発言の内容を共有するようにしている。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	言語文化
	単元(題材)名	単元名「季節の言葉と出会う」
	単元(題材)の概要	- 日本で受け継がれてきた自然観や美意識についての筆者の主張を読み取ることを目標とした題材である。(文章の内容読解) - 季語に興味をもつとともに、日本独自の自然の味わい方について自分の考えを深める。(調べ学習)
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	PC、モニター、タブレット端末、アプリ (PowerPoint) 
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 - どこを音読しているか、何を聞かれているか(発問内容)等、学習内容の把握をする。 - 学習内容を図式化して提示することで、整理して理解する。 〈工夫点〉 ①について - 音読の際は、モニターに映した文章を見ながら読んだ。読んでいるところを教師が指差しすることで、全員で情報を共有できるようにした。 - 発問の内容や答え、ヒントなどを手話や音声だけでなく文字情報で提示することで、確実に生徒に伝えた。 ②について - アニメーション機能で指示語のさす内容や、キーワードに印をつけることで、発問とその答えが分かるようにした。 - 必要に応じて写真などを提示することにより、語句の意味が理解できるようにした。 - 振り返りをする際に提示した。
	材料・作成方法等	アプリ (PowerPoint)
子どもの変容や評価		- 教科書のどこを読んでいるのかを全員で共有でき、音読の順番やタイミングがスムーズになった。 - 発問内容が文字として残り、正確に伝わることで、生徒同士の話し合い活動に全員が参加する様子が見られた。 - 教師が準備した答え以外は表示されないの、生徒からの発言が準備したものと違うときは、別に板書をする必要がある。